

# ワールド ウッド トренд

No. 10, 5 SEP 2014



## 1. 台湾は CCA 薬剤の使用禁止へ

環境保護署は、環境への負担を減らすため、今年2月6日に、CCAを木材保存処理剤として使用することを禁止する旨通達を出しており、2016年1月1日から実施される。

現在、台湾の市場で使用されている水溶性木材保存処理剤は、他にACQ、CuAz、ホウ化物、MCA、DDAC等環境に優しいものもある。だが中華木質構造建築協会が2013年に行ったACQ-1保存処理材の試験結果では、その合格率（K3より大きいもの）はわずか48.3%であった。このことから分かるように、安定した品質（国家基準のCNS3000に符合するもの）の加圧注入保存処理材を作り出すために、業界はなお一層の努力が求められている。

## 2. 台湾の木竹材産地証明制度の推進状況

林務局は国産材の利用促進を図り、将来の認証材需要の増加に対応するため、2012年より国産木竹材産地証明制度の企画立案及び執行を財団法人工業技術研究院に委託し、幾度にもわたる専門家検討会を通じて実施要領を制定し、林務局の審査を経て、正式に承認された。

行政は、この制度の実施要領に基づき、2014年に「国産木竹材産地証明制度推進審査委員会」を発足させた。同委員会は、政府代表1名、学界専門家5名、関連協会代表2名、業界代表1名を含む計9名の審査委員から構成されている。

2014年8月時点では、昆儀実業股份有限公司、正昌製材有限公司、徳豊木業股份有限公司並びに台湾大学実験林水里工場の4者がその認証を取得している。認証申請があった国産材は約2,580<sup>m</sup><sup>3</sup>で、うちスギが1,635<sup>m</sup><sup>3</sup>と最多を占め、次いでコウヨウザンが810<sup>m</sup><sup>3</sup>、台湾ンアカシアが135<sup>m</sup><sup>3</sup>、台湾ンスギが1.5<sup>m</sup><sup>3</sup>の順となっている。認証を受けたスギは建築用柱材、手摺、フェンスやコンクリート型板などの用途に用いられ、コウヨウザンは壁材などの内装材、台湾ンアカシアはスライスカットして化粧単板に加工され、合板及び複合フローリングの仕上げ表面材として利用されている。

### 3. 2014 年上半期住宅所有権移転登記件数は弱減

内政部が 8 月に発表した統計資料によれば、今年上半期における台湾の住宅所有権移転登記件数は 23 万 2,309 件、延べ床面積は 2,859 万 6,051m<sup>2</sup>で、2013 年同期と比べて、件数、床面積はそれぞれ 13,877 件 (-5.64%)、174 万 9,323m<sup>2</sup> (-5.76%) の減少となった。

住宅所有権移転登記の必要となる原因としては、売買、代物弁済、遺贈、贈与などがあり、その中で最も多いのが売買による所有権移転登記である。ここ 3 年の売買による所有権移転登記は、毎年年間 32 万～37 万件の間で推移しており、遺贈、贈与による所有権移転登記は年間 4 万～5 万件、残りは代物弁済やその他の事由による移転登記となっている。

このほか、家屋を新築した場合に主に行われる所有権の第一次登記の件数は近年やや増加し、2011 年は 9 万 3,622 件、2012 年は 10 万 2,510 件、2013 年は 11 万 1,093 件で増加傾向をたどり、2014 年上半期は前年同期の 4 万 6,767 件に比べて 5,816 件、12.4%増加の 5 万 2,583 件となっている。

住宅市場における建設工事及び完成後の内装、中古住宅の売買時のリフォーム工事などはいずれも様々な木材製品の需要拡大につながる。関連統計データで示したように、全体的にみれば、今年上半期における住宅市場のはやや後退気味であり、それは現在の木材市場の需給ギャップ、採算性の悪化や投げ売りの激化と図らずも一致している。

2011 年～2014 年における台湾の住宅移転登記件数、面積の推移

年別	移転登記総件数 (件)	面積 (m <sup>2</sup> )	売買登記 (件)	面積 (m <sup>2</sup> )
2011	497,739	78,759,325	361,704	40,927,781
2012	456,003	56,084,305	329,741	38,247,434
2013	503,628	61,435,445	371,892	42,554,197
2013、1-6 月	246,186	30,345,374	179,630	21,224,375
2014、1-6 月	232,309	28,596,051	164,662	18,655,971

#### 4. 台湾主要木材製品の2014年7月輸入実績

2014年7月における主要木材製品の輸入量は、下表に示すとおりである。

##### (1) 原木

7月の原木輸入量は6万 $m^3$ 台に回復した。うち、マレーシアからの輸入量は37,960 $m^3$ に達している。また、日本からのスギの同月輸入量は7,561 $m^3$ で、今年1~7月の入量は原木輸入全体の14.93%を占める62,987 $m^3$ にのぼり、マレーシアに次ぐ第2位の原木輸入先国となっている。

##### (2) 製材品

7月の製材品輸入量は11万381 $m^3$ に達し、近年の月平均輸入量10万 $m^3$ を上回っており、台湾の住宅建築市場の好調な景気状況を裏付けている。

##### (3) 合板

合板の7月輸入量は59,328 $m^3$ で、今年の7月までの月平均輸入量にほぼ等しい。また、1~7月の輸入量は前年同期に比べ、5.3%と小幅増加している。これは、住宅建築市場及び内装の需要増を反映したものとなっている。

##### (4) ブロックボード

7月のブロックボード輸入量は1,550 $m^3$ で、主に中国大陸に進出した台湾業者によって輸入されている。輸入ブロックボードの市場シェアは低く、5%未満である。

##### (5) 単板

7月の単板輸入量は17,398 $m^3$ と、今年の7月までの月平均輸入量にほぼ等しい量となっているが、前年の月平均輸入量21,000 $m^3$ に比べて大幅な減少を示し、主要木材製品の中で唯一マイナス成長となった。国内合板、ブロックボード及びLVL製造業者にとって、このことは悩みの種となっている。

##### (6) ランバーコア原料

7月のランバーコア原料輸入量は33,644 $m^3$ で、5月、6月と二ヶ月連続で24,000~25,000 $m^3$ の低水準にとどまっていた輸入量はようやく回復に転じたものの、単板の調達難、価格高騰と内需の伸び悩みなどの影響は続き、業者は厳しい経営環境に直面している。

(7) パーティクルボード

7月の輸入量は33,094m<sup>3</sup>と、二ヶ月連続で3万m<sup>3</sup>超えの輸入量となった。インタビュー調査によれば、国内外からの受注増が主な原因である。

(8) 繊維板

7月の輸入量は11,658m<sup>3</sup>と、6月に比べて約7,000m<sup>3</sup>減少した。そのうち、タイからの輸入量は約8,000m<sup>3</sup>にまで減少したが、インタビュー調査によれば、輸入減の要因として、タイの業者が中東及び韓国への出荷を優先させたことが挙げられる。

2014年7月における主要木材製品の輸入実績 (m<sup>3</sup>)

品目	2014年7月	2014年1～7月	2013年1～7月	2013年同期比 (%)
原木	60,008	421,912	412,150	2.36
製材品	110,381	755,583	713,810	5.85
合板	59,328	418,864	397,769	5.30
ブロックボード	1,550	7,319	6,854	6.78
単板	17,398	124,165	156,180	-20.50
ランバーコア原料	33,644	226,297	215,135	5.19
パーティクルボード	33,094	196,275	154,774	26.81
繊維板	11,658	104,641	90,220	15.98

(本文は現地レポートを基に編集したもの)